

外部評価（総合的意見）に対する市の取組状況

01行革⑤-2-2

各年度の提言内容

28 年 度	<p>PDCAサイクルの徹底について</p> <p>市民を味方に付けた（市民参加型） 行政活動の加速について</p>	<p>過去の当委員会の提言（総合的意見） について</p> <p>当委員会の責務である行政改革活動 全般に対する総括</p>
29 年 度	<p>新しい行政評価システムの適正運用 （事務事業マネジメントシートの改善）</p> <p>外部委託ノウハウの強化と総点検 について</p>	<p>提言に対する市の回答をフォローアッ プする中で見えた課題について</p>
30 年 度	<p>「市職員相互の支援」と「外部の 力の有効活用」</p> <p>基本業務の徹底</p>	<p>「委託事業者の適正な管理」と 「外部評価の適正化」</p>

外部評価（総合的意見）に対する市の取組状況

PDCAサイクルの徹底について

新しい行政評価システムの適正運用
（事務事業マネジメントシートの改善）

過去の当委員会の提言（総合的意見）
について

提言に対する市の回答をフォローアップ
する中で見えた課題について

- 評価表の構成をこれまでより目標や課題を認識しやすい形に見直し
- 中間評価を実施することで事務事業評価結果に基づく予算要求の実施
- 事後評価の年度内実施することで担当者が人事異動前に評価可能となりより精度の高い評価が可能
- 評価対象・対象外事業の区分見直しによる対象事業の絞り込み
 - 職員の負担を軽減しつつ優先度の高い評価の実施
 - 合わせて、優先度を高めたことで重点事務事業評価を廃止
- 行政評価結果及び日報管理システム結果の周知
 - 管理職向けに周知しつつ、全職員向けに改めて掲示板で周知することで予算の生じている事業だけではなく、人件費についても意識した予算編成を促す

外部評価（総合的意見）に対する市の取組状況

市民を味方に付けた（市民参加型） 行政活動の加速について

- ▶ まちづくり協議会の設立，推進
→地域住民が協力し合い，行政と協働して地域の諸課題に取り組むための組織である「まちづくり協議会」の設置 【高野地区，大野地区，大井沢地区，北守谷地区，みずき野地区，守谷地区】
→各地区から地区の課題やニーズに合った新規事業提案をいただき，市として検討する
- ▶ タウンミーティングの実施
→市民に市政への関心を持っていただき，協働のまちづくりを推進するため，市民と市長が直接意見を交換するタウンミーティングを地域福祉活動計画に基づく6地区（上記まちづくり協議会地区と同様）に分けて開催

外部委託ノウハウの強化と 総点検について

「市職員相互の支援」と「外部の 力の有効活用」

「委託事業者の適正な管理」と 「外部評価の適正化」

- ▶ モニタリングマニュアルの活用
→指定管理者制度を導入している施設に対しモニタリングを実施
- ▶ 職員の業務内容を整理し，適正な人員配置・アウトソーシング・RPA等の導入
→行政改革実施計画や今年度の外部評価対象となっているとおり，業務プロセスの調査・可視化を行うため関係事業者との協議を実施

外部評価（総合的意見）に対する市の取組状況

市民を味方に付けた（市民参加型） 行政活動の加速について

「市職員相互の支援」と「外部の 力の有効活用」

- ▶ グリーンインフラの推進に伴う関係者との連携
 - 民間事業との包括連携協定の締結
 - （株）福山コンサルタントとグリーンインフラ推進に関する協定を締結（3年間無償で協力）
 - 庁内検討委員会の立ち上げ
 - 若手職員を中心に19課20名集め、ワークショップを開催することで、各課への意識付けを行い各企画において協力体制を築く
 - 「MORIYA GREEN BEER」の開発
 - 守谷市内でホップを使ったグリーンカーテンを育て、そのホップを使ってオリジナルビールを製造
この過程において小中学校、ショッピングセンター、市民団体、商工会、市内酒屋、ビール会社に協力を仰ぐ
またテレビ、ラジオ、新聞、Web等の各マスコミを活用し周知を図る
 - 「もりや生き物調査隊」の実施
 - 市民総合支援アプリ「もりんふお」を活用し、市民から昆虫や草木の実を投稿してもらいコンテストを開催
投稿について、福山コンサルタントや筑波大学生に解説を依頼
 - 「守谷野鳥のみち」の整備
 - 観光協会、首都圏新都市鉄道（株）、小中学校と協働で遊歩道の整備
ウォーキングイベントの開催やつくばエクスプレスの中張り広告へ無償掲載